



# くりしま

## 《本園の教育目標》

- 元気がある ○自分のことは自分でする
- 仲良く遊ぶ ○ものごとに興味・関心をもつ
- 思ったことを話し、人の話を聞く
- 体験や考えに感動する ○工夫して表現する

[《栗島幼稚園ホームページ》](#)

栗島幼稚園

検索

[《Instagram》](#)

kurishima1955



園長 矢田 泰久



令和8年（2026年）の幕開けです。新しい年を迎える保護者の皆様におかれましては、清々しい気持ちで新年をお迎えのことと存じます。日頃より本園の保育にご理解とご協力を賜り、心より

**<2026 日の出(千葉県我孫子市)>** 感謝申し上げます。本年も子どもたち一人ひとりの育ちを大切にしながら園生活を丁寧に積み重ねてまいりたいと願っております。

さて、日々の子育ての中では、思うようにいかない場面に出会うことが少なくありません。朝の支度が進まないとき、気持ちの切り替えが難しいとき、何度も伝えても同じことを繰り返してしまうときなど、つい「どうしてできないの？」「何回言ったら分かるの？」と声をかけてしまうこともあるのではないでしょうか。それは決して特別なことではなく、子どもを思い、真剣に向き合っているからこそ自然な気持ちだと思います。

けれども、新しい年の始まりに、私たち大人がひとつ心に留めておきたい問い合わせがあります。それは「どうすればできるかな？」という問い合わせです。「何でできないの？」という言葉が、過去や原因に目を向けやすいのに対し、「どうすればできるかな？」という言葉は、これから先の可能性や希望に目を向けさせてくれます。その問い合わせには、「一緒に考えてみよう」「大丈夫、方法はきっとあるよ」という温かなまなざしが込められています。

幼児期の子どもたちは、心も体も、そして生活の力も、少しづつ育っていく途中にいます。できないことがあるのは当然のことですが、それは失敗ではなく、成長に向かう大切な過程です。まだ経験が足りないだけかもしれませんし、やり方や環境が合っていないからだけかもしれません。「まだできない」ではなく、「ここまでできたね」「次はどこをやってみようか」と、小さな歩みを認めてもらえることで、子どもは安心し、自分から挑戦しようとする力を蓄えていきます。自分を信頼できる、自信をつける道筋です。

園でも今年一年、「どうすればできるかな」というまなざしを大切にしながら、子どもたち一人ひとりの姿に寄り添っていきたいと考えています。うまくいかないときこそ、立ち止まり、子どもの今の姿を見つめ、次の一步と一緒に探すことを大切にしてまいります。

ご家庭でも、日々の中で行き詰まりを感じたときに、問い合わせを少しだけ言い換えてみてください。その小さな言葉の変化が子どもたちの心に安心と自信をもたらし、新しい一年の健やかな成長へつながっていくことだと思います。本年も、園と家庭とが共に歩みながら、子どもたちの育ちを支えていけました幸いです。よろしくお願ひいたします。

**<2026 1/8 始業式>**

